

施策の進捗管理シート

令和 7 年度

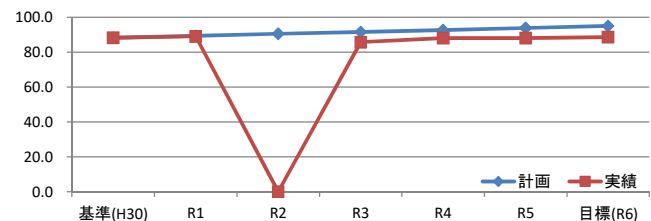
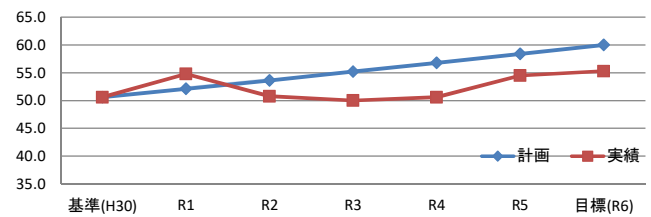
総合 体系 計画	分野	5	第 5 章	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	施策統括課	スポーツ振興課
	施策No.	5	施策名	誰もが親しめる市民スポーツの充実	課長名 (施策統括責任者)	吉谷 隆幸
	関係課	スポーツ振興課 学事課				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	市民誰もが、生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている。
取組方針	市民のライフステージに応じた健康、体力づくりを進めるため、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに接することができる環境づくりに取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）*人や自然資源等	市民						
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	市民誰もが、生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている。						
成果指標 A							単位
日常的に（週に1回以上）運動・スポーツをしている市民の割合							%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績	
50.6	52.1 54.8	53.6 50.8	55.2 50.0	56.8 50.6	58.4 54.5	60.0 55.3	
成果指標 B							単位
運動やスポーツが好きな小中学生の割合							%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績	
88.3	89.4 89.1	90.5 -	91.6 85.8	92.7 88.0	93.8 88.0	95.0 88.6	



3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	26.1%	24.9%	↓
ある程度重要である	50.1%	49.4%	↓
あまり重要ではない	15.6%	18.8%	↑
重要ではない	2.7%	3.2%	↑
順位	36/36位	36/36位	➡

施策の満足度	前回	今回	
満足している	5.1%	6.0%	↑
どちらかといえば満足	51.9%	57.4%	↑
どちらかといえば不満	22.7%	20.5%	↓
不満である	2.6%	2.2%	↓
順位	6/36位	5/36位	↑

4. これまでの取組・成果

第2次佐賀市総合計画では、「市民誰もが、生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている。」ことをめざす姿に掲げ、「生涯スポーツの推進」、「競技スポーツの推進」、「スポーツ施設の整備と活用」を柱として事業を実施した。

まず、「生涯スポーツの推進」では、総合型地域スポーツクラブの育成、各種スポーツ教室の開催、ニュースポーツの普及、スポーツの効果や魅力の発信を行い、定期的にスポーツを行う人を増やす取り組みを行った。成果として、総合型地域スポーツクラブ数は7団体から8団体に増加。各種スポーツ教室は、市スポーツ協会主催に加え、プロスポーツと連携した子育て世代や小中学生対象の教室を行い、スポーツに親しむ機会を増やした。ニュースポーツは幅広い年代に浸透しており、用具の貸し出しや出前講座は市民に認知され、気軽にスポーツに取り組みきっかけとなっている。

次に「競技スポーツの推進」では、スポーツ指導者の育成・強化するため研修会や資格取得への助成、各種大会への派遣・援助等を行い競技力の向上に努めた。また、オリンピック開催時は本市出身選手の地元でパブリックビューイングを行い、SAGA2024国スポ・全障スポでは、動画や競技別プロモーションビデオ、観戦ガイド等で市民に競技の魅力を伝え競技会場での観戦を促すなど、競技スポーツへの関心を高める取組を行った。

最後に、「スポーツ施設の整備と活用」では、スポーツ施設の有効活用と環境整備を図り、施設の情報提供を充実させた。結果、市有体育施設は高い利用率を保っている。また、令和4年度に完成した富士しやくなげ水上競技場はSAGA2024国スポの競技会場となり、大会後は新たなスポーツ等の拠点として期待できる。

5. 指標の達成状況に関する分析

1つ目の指標「日常的に（週1回以上）運動・スポーツをしている市民の割合」は、目標の60%には至らなかったものの、第2次総合計画後期の初年度にあたる令和2年度が50.8%であるのに対し、令和6年度は55.3%と、過去5年間では最も高い割合となった。

新型コロナウイルス感染拡大による社会活動等の自粛が続いた令和4年度までは50%代を推移しているが、5類感染症に移行した令和5年度以降は約55%にまで伸びており、スポーツをする機会が増え、日常化していることが読み取れる。

また、令和5年度はパリオリンピックやSAGA2024国スポ・全障スポ開催の前年あたり、各種メディアで大会関連情報が増えたこと、また市内でSAGA2024のリハーサル大会が開催され、競技スポーツを見る機会が増えたことも市民のスポーツに対する関心の高まりに影響したのではないかと考える。

また体を動かすことは日常化していない場合でも、SAGAアリーナ完成後、バスケットボールやサッカー、バレーボールなど、本市と関わりの深いプロスポーツを見て楽しむ、競技者を応援する（支える）ことでスポーツに関わる市民は増えており、スポーツへの関わり方は多様化している。

2つ目の指標「運動やスポーツが好きな小中学生の割合」の目標値88%に対し、令和6年度は88.6%と目標を達成した。どの年度も90%に近い高い数値となっていることから、学校活動（体育や部活動）だけでなく、社会体育活動やスポーツイベントへの参加、プロスポーツが身近にあり観戦の機会が多いこと等が影響していると考えられる。

6. 今後の方向性（第3次佐賀市総合計画への反映など）

人々を夢中にさせ暮らしに潤いを与える、生活の一部にあることで夢や誇りにつながるといった「スポーツの持つチカラ」に着目し、「市民は、する・みる・ささえるのさまざまな関わり方でスポーツを楽しんでいる」姿の実現を目指す。

- ・自分らしくスポーツと関われること
- ・「する」以外のスポーツへの関わり方の魅力が伝わること
- ・プロスポーツチームのホームタウンである強みを生かすことを主なポイントとして、本市のスポーツ振興に努める。